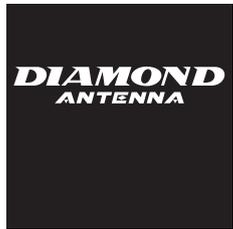


RHM10

Mコネクタタイプ



取扱説明書

このたびはダイヤモンドアンテナをお買い求めいただきましてありがとうございました。このアンテナはアマチュア無線用7~430MHz帯移動運用専用可変型アンテナです。ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ正しくお使いください。お読みになったあとも大切に保存してください。

注意

事故を未然に防ぐために、以下の注意事項をお守りください。

- ①このアンテナは、移動運用時において車体や金属手すりなどアースとして使用し、仮設的に設営してお使いいただくように設計されています。したがって、車で移動したり、無線機に直付して持ち歩いたり、常設でご使用になることは機械的強度、防水などの問題により、ご使用になれません。
- ②送信中にアンテナに触れると感電することがあります。絶対にアンテナに触れないでください。
- ③アンテナの取り付け、取り外しの際は、顔などに当たらないよう十分に注意してください。

- 特長**
- ①RHM10は、7~430MHzまで広範囲にわたり周波数の変更が可能であるため、移動運用時はこれ一本でOKです。
 - ②周波数調整は、アンテナ本体コイル部の上下移動およびロッドエレメントの伸縮により簡単にできます。
 - ③144MHz帯は、ロッドエレメントの長さにより、1/4λ、5/8λの両方の仕様として使うことが可能です。

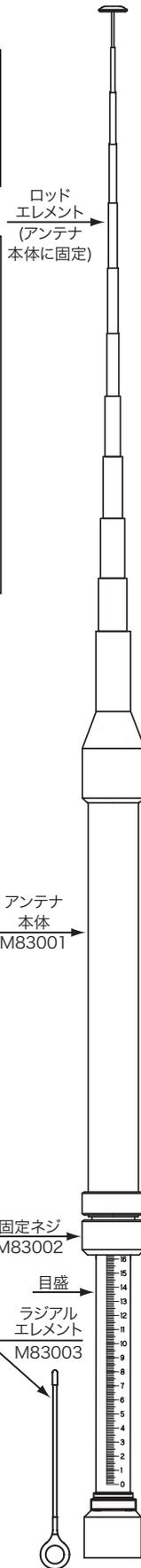
- アンテナ取付場所(例)**
- ①車体アースが取れる部分(ルーフサイド・トランクリッドなど)に基台を取付け設置する。
 - ②マグネット基台を使用して車のルーフに設置する。
 - ③マグネット基台を使用して木製テーブル上に設置し、10m程度のアース線を付け設置する。
 - ④建物の金属手すりにアースが取れるように設置する。

- 使用上の注意点**
- ①より良好に通信をするため、アンテナは垂直に立ててご使用ください。
 - ②使用環境によっては、SWRが1.5以下に下がらないことがあります。その時には、アンテナチューナーなどを併用して、お使いになることをお勧めいたします。

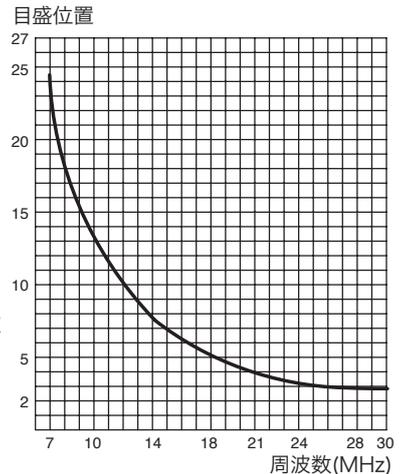
- 調整方法**
1. 運用する周波数に対応したコイル固定位置を右上表より、確認してください。
 2. 固定ネジを、手で1/2回転ほど回してゆるめてください。(ロッドエレメントは縮めた状態)
 3. 目的の位置にアンテナ本体をスライドさせて移動し、固定ネジを手で締め付けて固定してください。そして、上部のロッドエレメントを全て伸ばしてください。

注 プライヤー等の工具で、固定ネジを締め付けしないでください。破損の原因となります。

●外観図



4. 実際に送信して、SWRを測定します。同調している周波数が目的の周波数より低い場合は、ロッドエレメントを少し短くするか、アンテナ本体を少し下げて調整してください。
5. 同調している周波数が目的の周波数より高い場合は、アンテナ本体を少し上げて調整してください。



注 設置方法や周囲の状態により、SWRが下がらないことがあります。その際は、設置環境を変えて調整してください。また、アンテナチューナーを併用することも良い方法です。

6. 50MHz帯は、コイルを全て下げ、ロッドエレメントを全て伸ばした状態で同調します。
7. 144/430MHz帯は、付属のラジアルエレメントをM型コネクタ部に入れ、アンテナをねじ込み固定して使用してください。144MHz帯はアンテナ全てを短くした状態(1/4λ)、または、ロッドエレメント部を最大に伸ばした状態(5/8λ)で使用してください。430MHz帯はアンテナ全てを短くした状態(5/8λ)で使用してください。

- 規格**
- 周波数:7~430MHz帯
 耐入力:130W(SSB)
 インピーダンス:50Ω
 全長:約0.5~1.77m
 重量:300g
 接栓:M-P
 形式:1/4λ短縮型(HF帯)、1/4λ(50/144MHz帯)、5/8λ(144/430MHz帯)
 ※144MHz帯は、ロッドエレメント長で2通りの仕様になります。
- 付属品:ラジアルエレメント

●送信空中線の型式
 アマチュア局の免許申請書類の空中線型式には『単一型』または『垂直型』とお書きください。

- お買い上げいただいた製品は厳重なる品質管理のもとに生産されておりますが万一、運搬中の事故などによる破損がありましたら、取扱店にお申し付けください。
- 本アンテナの仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。